

塘研究室現地調査報告

6月25日に佐々木信彰君（B4）の調査に同行して、鈴木花苗さん（B4）とともに銅沼にサンプリングに行ってきました。彼の卒業研究のテーマは「銅沼の底生動物の食性解析」ですが、銅沼は磐梯朝日国立公園の特別保護地区内にあり、動物の捕獲には環境省の許可が必要です。ようやく許可が頂けたので、今年度1回目の調査を実施しました（銅沼は国有林野ではないため、国有林の入林許可は不要でした）。

これまで銅沼からは8種の水生昆虫を確認していますが、今回はそれらの採集と、新たな底生動物の確認が目的でした。到着後、沼底に夥しい数のチビミズムシがいることに気が付きました。同定の結果、クロチビミズムシでしたが、これは銅沼からの初記録です。その他、カ科、ユスリカ科、キベリヒラタガムシ、マメゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ属、センブリ科も採集できましたが、すべてが初記録種でした。既知種のチャイロシマチビゲンゴロウは成虫・幼虫ともに多数が見られ、チビゲンゴロウやヒメアメンボも成虫を多数確認できました。この他にアミメトビケラ属らしい羽化殻（と成虫の死骸）も確認しました。一方、トンボの仲間2種、ゲンゴロウ、モンキマメゲンゴロウ属、アメンボの4種は確認できませんでした。持ち帰ったサンプルの同定は終わり、いよいよ安定同位体比の分析が始まります。

